

大地震でも、
損傷ゼロをめざして

社会資産として半永久的に残る建築物が少ない日本。地震によって資産価値が失われてしまうことも大きな要因です。求められるのは、大地震に立ち向かう超高性能建築。「新構造システム建築物」の官民連携プロジェクトが進んでいます。革新的な高強度鋼と制振ダンパーの組み合わせにより、めざすのは、震度7クラスでも建物を無損傷に保ち、耐用年数200年を実現すること。新日鉄は建築物のメインフレームに必要な $800\text{N}/\text{mm}^2$ 級高強度鋼材と、その鋼材を接合する $1,800\text{N}/\text{mm}^2$ 級高強度ボルト・接合技術の開発に貢献。新構造システム確立の原動力となりました。また、この建築物はライフサイクルを通して排出されるCO₂や産業廃棄物を大幅に削減することも可能になります。新鋼材で、安心・安全、環境にやさしい新構造を。これからの社会づくりを支えるのは、やっぱり鉄です。

先進のその先へ、新日鉄

www.nsc.co.jp